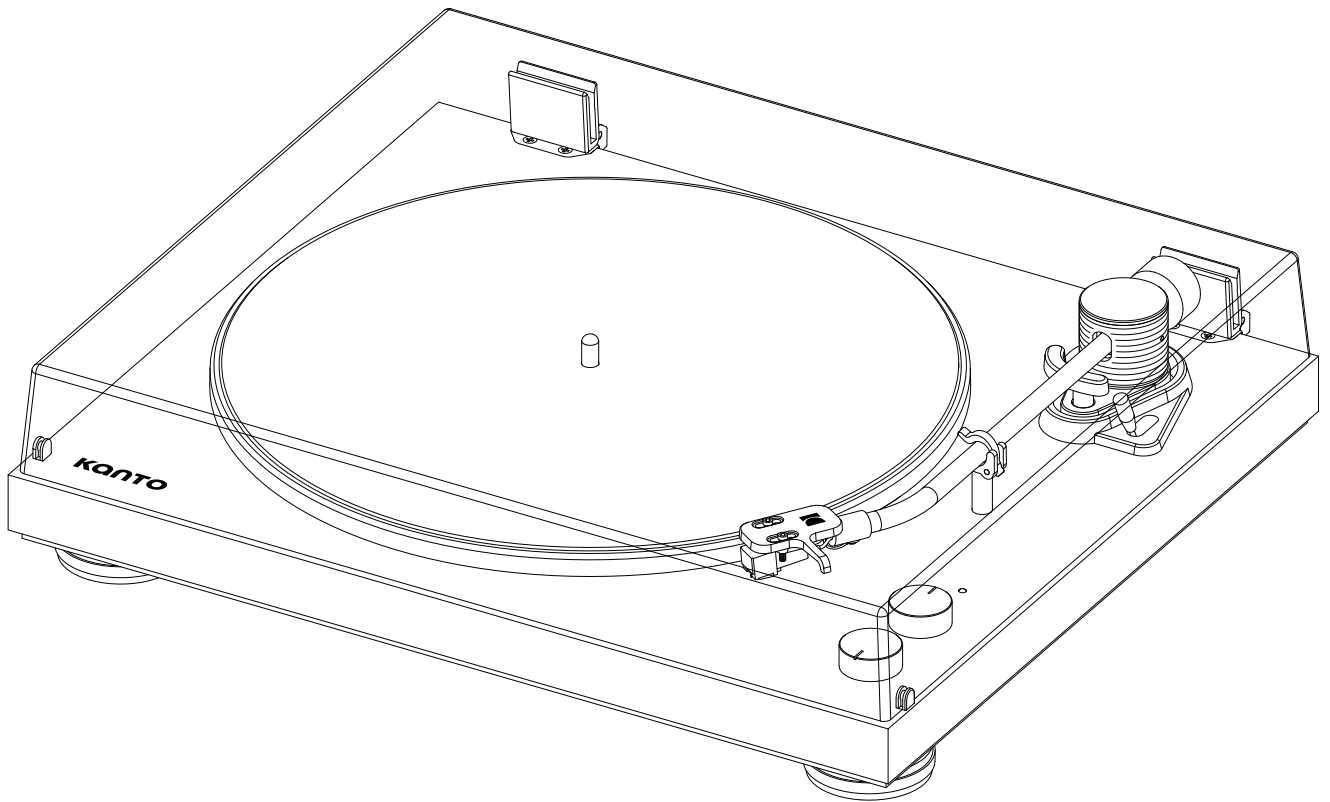


# OB13

ターンテーブル



**KANTO**

日本語 ユーザーマニュアル

## 重要な安全上の注意事項



### 警告

安全の為の注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。



注意: 感電の危険を軽減する為、バックパネルを取り外さないでください。資格のあるサービス担当者に修理・点検をご依頼ください。



### 感電注意

分解したり、水をかけると、感電の原因になります。

- 
- この説明書をお読みください。
  - この説明書を保管してください。
  - 全ての警告にご注意ください。
  - 機器を水の近くで使用しないでください。
  - お手入れは乾いた布でのみ行ってください。
  - 通気口を塞がないでください。
  - ラジエーター、ヒーター、ストーブ、その他熱を発生する機器(アンプを含む)などの熱源の近くに設置しないでください。
  - 電源コードを踏んだり挟んだりしないでください。
  - 付属品はメーカー指定品以外使用しないでください。
  - カート、スタンド、三脚、ブラケット、テーブルなどはメーカー指定品、または付属品をご使用ください。
  - カートを使用する場合、転倒による怪我を避けるため、十分ご注意ください。
  - 雷雨時や長期間使用しない場合は、本装置の電源プラグを抜いてください。
  - あらゆる整備は資格のあるサービス担当者にご依頼ください。
-

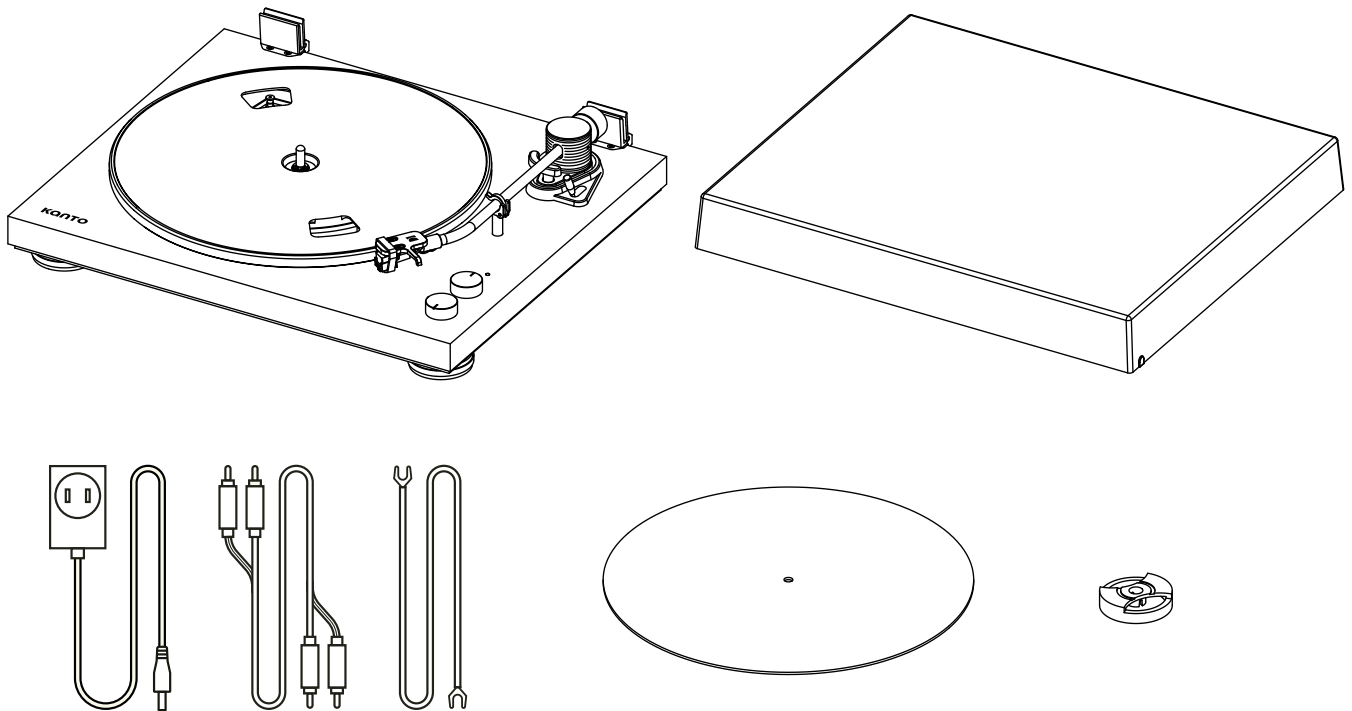
## はじめに

クラシックな魅力と現代的な利便性を兼ね備え、ご自宅にレコードの温かみをお届けします。洗練された一体感のあるデザイン、埋め込み式のヒンジや光沢仕上げのアルミプラッターといった細部へのこだわり。Obi3は、耳と目の両方で楽しめるよう設計されています。直感的に操作できるピッチコントロールノブを使えば、再生速度を遅くしたり、速くしたりでき、お気に入りのアルバムに新たな質感を見いだせます。ワイヤレスで自由に楽しめるBluetooth®接続と、内蔵フォノプリアンプ付きRCA接続によるクラシックな接続、2つの選択肢で、Obi3はどんなスピーカーシステムにも接続してレコードを再生できます。定評あるAudio-Technica製AT3600Lカートリッジを通してスムーズでバランスの取れたサウンドを提供するObi3は、より奥深いリスニングへの道を開いてくれます。細部まで考え抜かれ、スタイリッシュですぐに再生できるObi3なら、レコードの奥深い魅力を、誰でも気軽に味わえます。

このターンテーブルは、製造中、そして梱包・出荷前に、慎重なテストと検査が行われています。開梱後、破損がないかまずご確認ください。輸送中にユニットが破損することは稀ですが、その場合は直ちに販売店にご連絡ください。

1-888-848-2643 まで Kanto に直接電話するか、support@kantoliving.com に電子メールを送信することもできます。

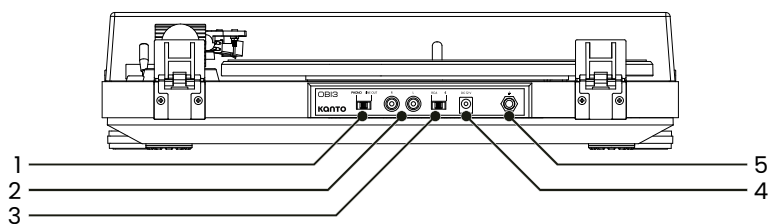
## ボックスの中身





# ターンテーブルの概要

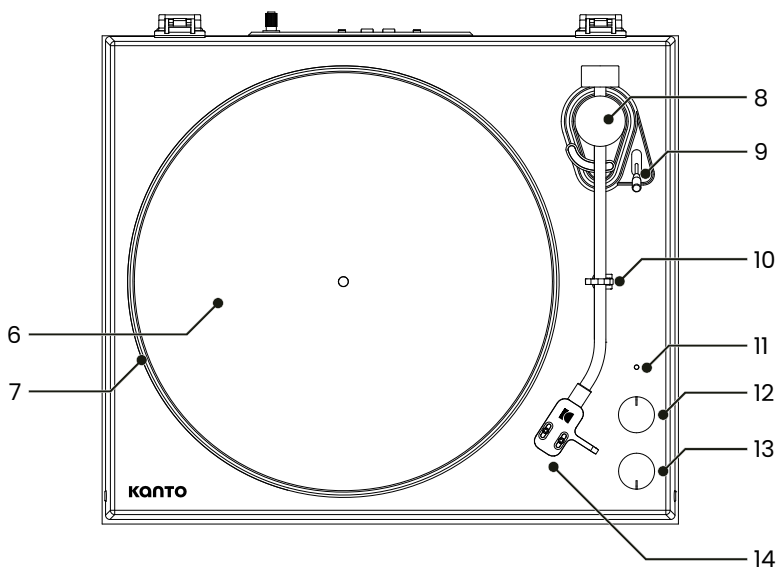
## ターンテーブル背面

- 1 フォノ/ライン出力切替スイッチ
- 2 RCA出力端子
- 3 RCA/Bluetooth出力切替スイッチ
- 4 DC入力端子
- 5 アース端子



## ターンテーブル上面

- 6 フェルトマット
- 7 プラッター
- 8 トーンアーム
- 9 キューレバー
- 10 トーンアームロック
- 11 LED
  - 赤 - フォノオン
  - 青 -  ペアリングモード(点滅)
  -  ペアリング済み(点灯)
- 11 ピッチコントロール
- 12 電源オン/オフ および 33/45回転速度切替スイッチ
- 14 AT3600Lカートリッジが装着されたヘッドシェル

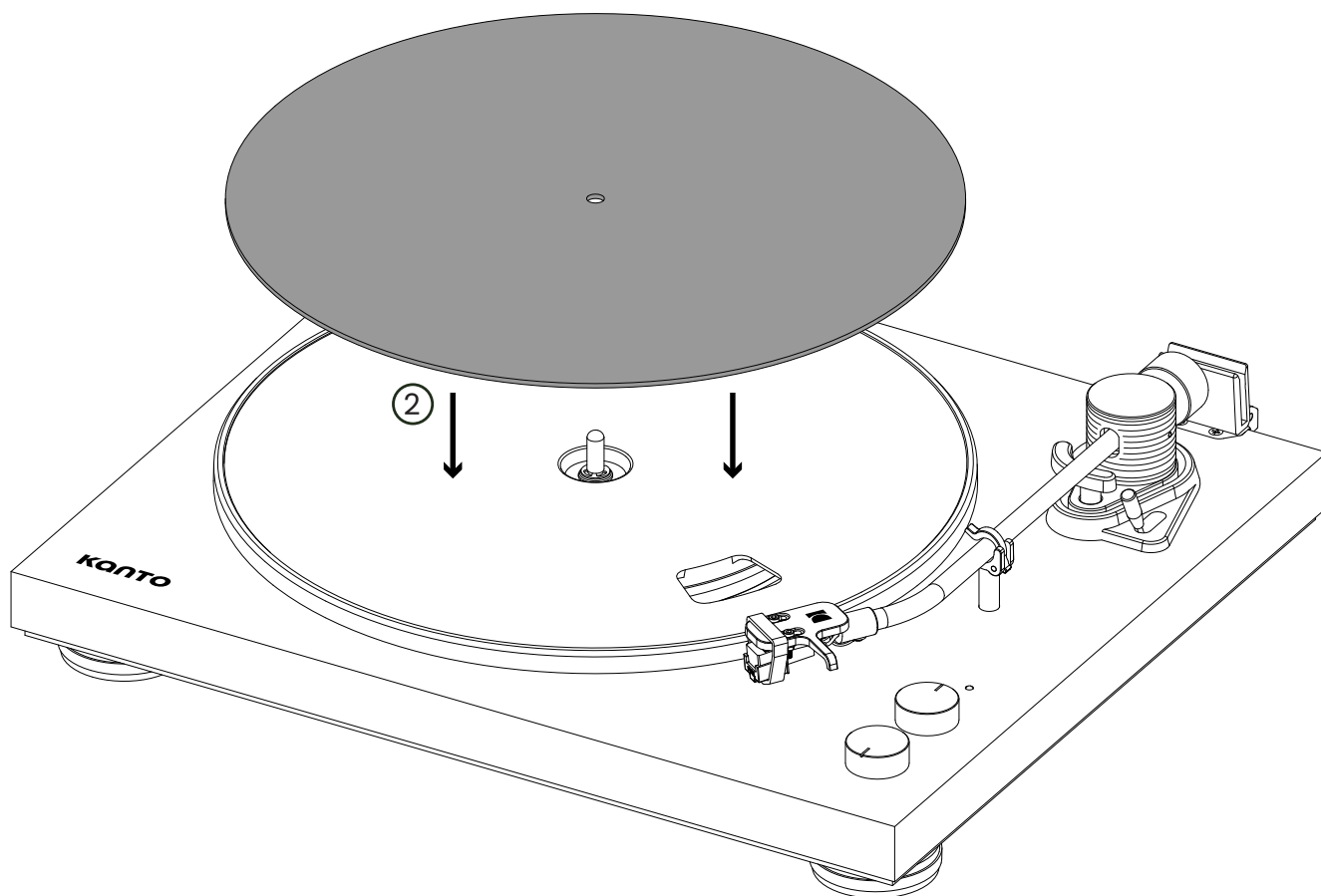


## ターンテーブルのセットアップ方法

Obi3は工場出荷時に設定済みのため、カートリッジの針圧やアンチスキッピングの調整は不要です。

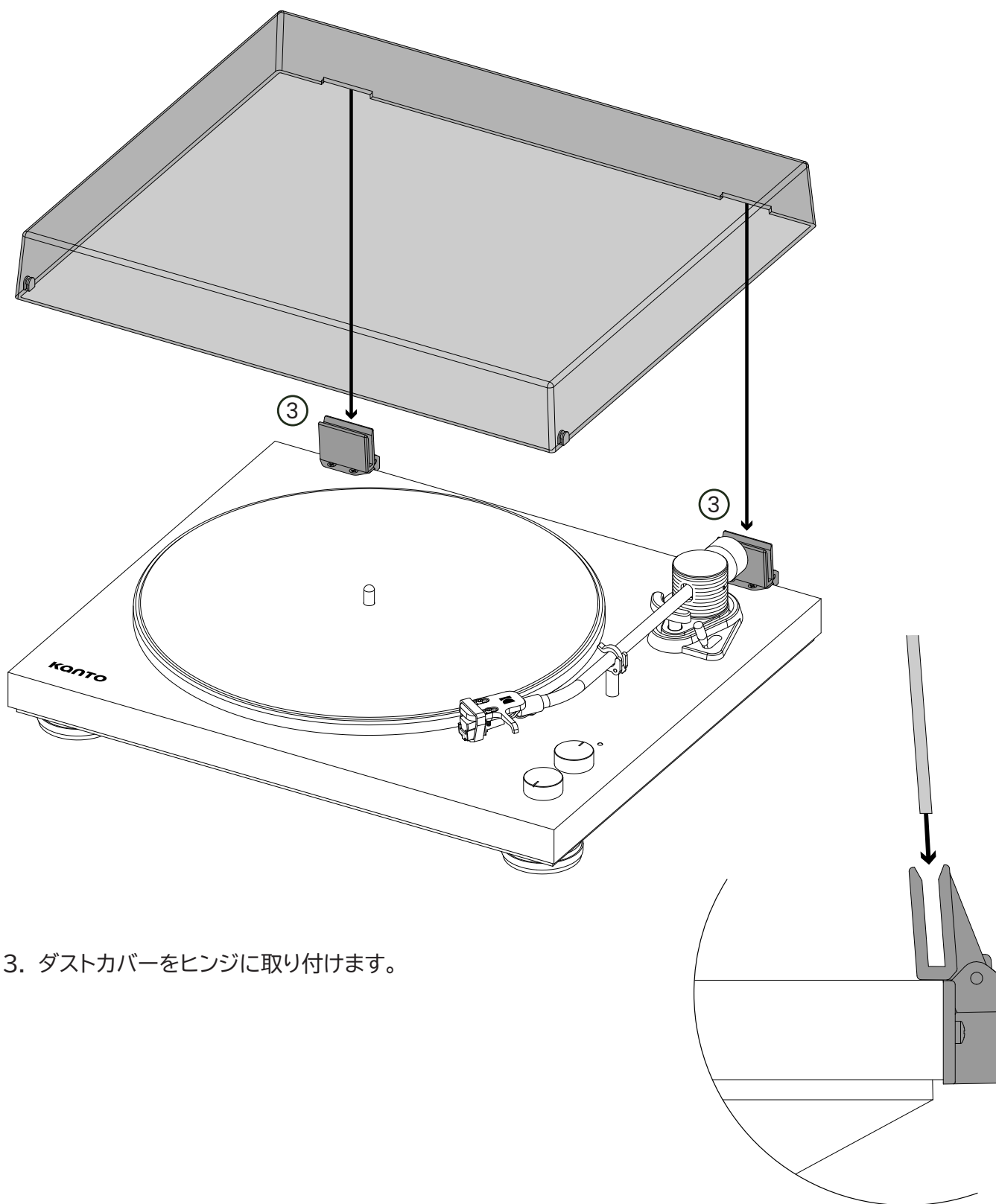
最高のパフォーマンスを得るために、Obi3を安定した水平な場所に設置してください。繊細なトーンアームがスピーカーの振動を拾わないように、ターンテーブルはスピーカーとは別の台に置くことをお勧めします。スピーカースタンドを使用すると、スピーカーを設置面から分離・独立させ、音質がさらに向上します。レコードの反りを防ぐため、本機を直射日光の当たる場所に置かないようにし、使用しないときはレコードをターンテーブルの上に放置しないでください。

1. 梱包材に入ったままObi3を箱から慎重に取り出します。



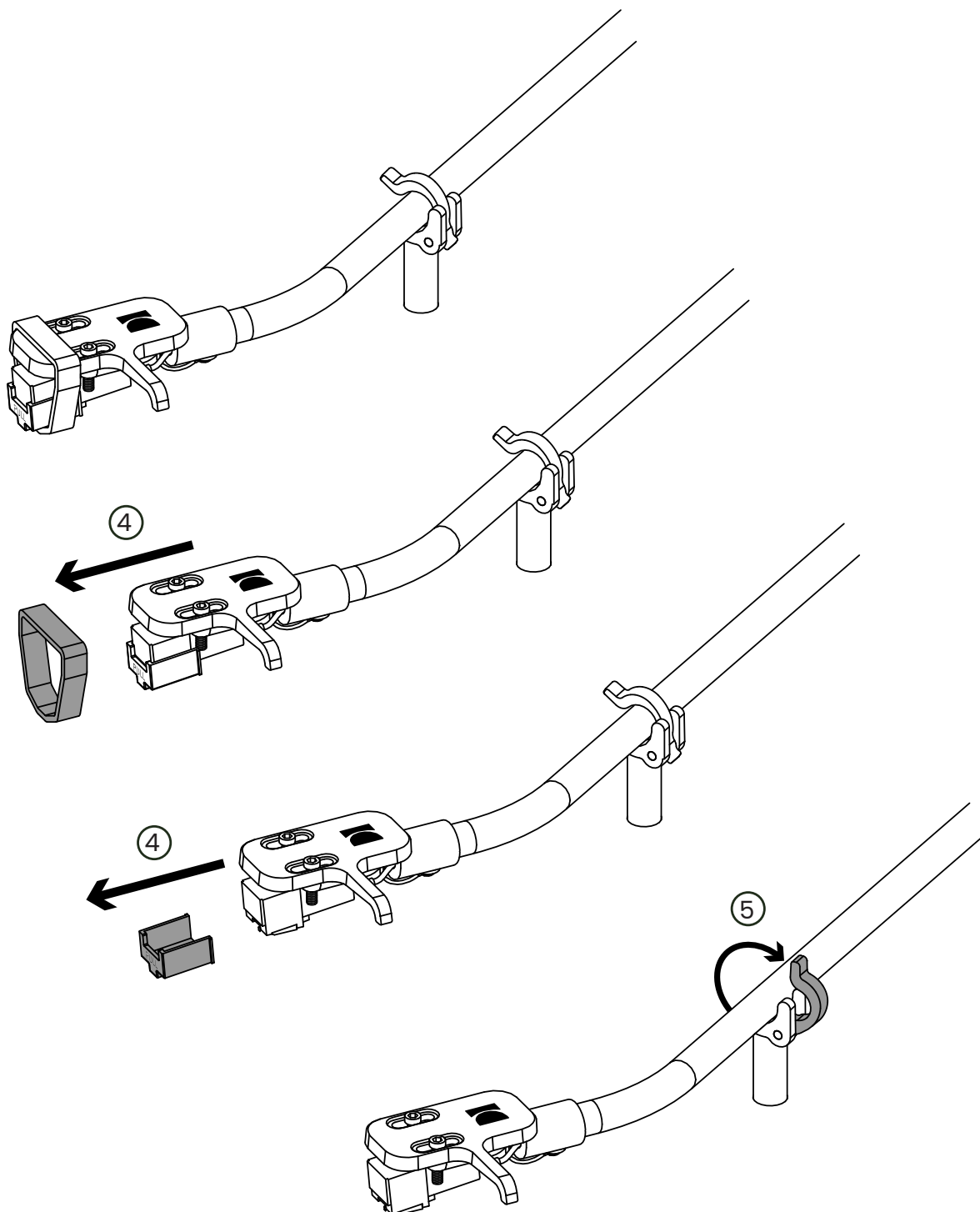
2. プラッターにスリップマットを置きます。

cont'd



3. ダストカバーをヒンジに取り付けます。

cont'd



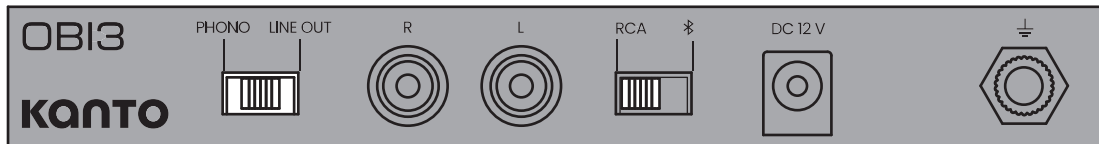
4. カートリッジからプラスチックのカバーを取り外します。

5. 円形のトーンアームロックを解除します

# 音源の接続方法

最高の音質を得るには、有線接続を使用してください。RCAケーブルとアース線が付属しています。お好みの設定に応じて、本体背面でRCAまたはBluetoothを選択してください。オーディオケーブルを接続する際は、必ず電源スイッチをオフにしてください。

## フォノプリアンプ内蔵のパワースピーカーに接続する場合



フォノ ↔ ライン出力 ←

1. 本体背面のスイッチがRCAに設定されていることを確認します。Obi3の内蔵フォノプリアンプをPHONO出力に切り替えてください。これにより、ターンテーブル内蔵のプリアンプをバイパスし、低レベルのフォノ信号が送られます。
2. これにより、ターンテーブル内蔵のプリアンプをバイパスし、低レベルのフォノ信号が送られます。付属のRCAケーブルを使用して、Obi3のRCA出力とアンプ内蔵型スピーカーのPHONO入力を接続してください。お使いのスピーカーにLINE/PHONO入力で共有のRCA入力がある場合は、スピーカー内蔵のプリアンプを有効にするために、必ずPHONOに設定してください。
3. アンプにアース端子がある場合は、付属のアース線をObi3とアンプの双方に接続してください。

## フォノプリアンプ非内蔵のパワースピーカーに接続する場合

1. Obi3の背面にあるRCA端子が設定されていることを確認してください。Obi3の内蔵フォノプリアンプをLINE OUT出力に設定してください。これにより、ターンテーブルに内蔵されているフォノプリアンプが起動し、フォノ信号をラインレベル信号に変換します。
2. 付属のRCAケーブルを使用し、Obi3のRCA出力をアンプのLINE入りに接続してください。

フォノプリアンプ内蔵のKanto製スピーカー：Tuk, Yu6, Yu4

## フォノプリアンプ内蔵のアンプに接続する場合

1. Obi3の背面スイッチがRCAに設定されていることを確認します。Obi3の内蔵フォノプリアンプをPHONO出力設定にしてください。これにより、ターンテーブル内蔵のプリアンプがバイパスされ、低レベルのフォノ信号が送られます。
2. 付属のRCAケーブルを使用して、Obi3のRCA出力をアンプのPHONO入りに接続します。
3. アンプにアース端子がある場合は、必ず付属のアース線をアンプとObi3に接続してください。

フォノプリアンプ非内蔵のKanto製スピーカー：Ren, Yu, Ora4, Ora, Yu2, Uki

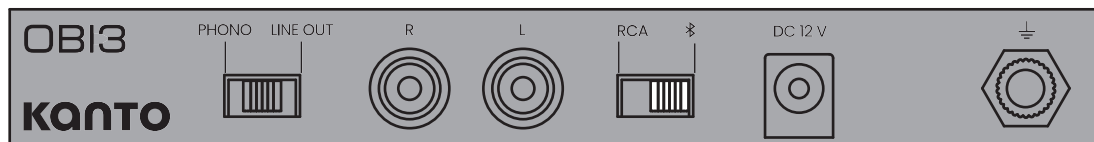
## フォノプリアンプ非内蔵のアンプに接続する場合

1. Obi3の背面スイッチをRCAに設定されていることを確認します。内蔵フォノプリアンプをLINE 出力設定にしてください。これにより、ターンテーブル内蔵のフォノプリアンプが作動し、フォノ信号がラインレベル信号に変換されます。
2. 付属のRCAケーブルを使用し、Obi3のRCA出力をアンプのラインレベルRCA入りに接続してください。

# Bluetoothの接続



1. Bluetooth再生機器(スピーカー、アンプ、ヘッドホンなど)の電源がオンになっており、Bluetooth入力モードに設定されていることを確認します。再生機器をペアリングモードにします。具体的な手順については、お使いの機器の取扱説明書を参照してください。
2. 本体背面のスイッチをBluetoothに切り替え、Obi3のBluetoothペアリングを有効にしてください。Obi3上部のBluetoothインジケータライトが点滅し、ペアリングモードに入ったことを確認します。これは、Obi3が対応する再生機器を積極的に探している状態です。



RCA → \*

3. Obi3が再生機器を検索し、自動的に接続するまでしばらく待ちます。
4. ペアリングに成功すると、通常、Obi3のBluetoothインジケータライトが点灯に変わり、安定した接続が確立されたことを示します。

## Bluetooth の操作

Obi3とBluetooth再生機器との距離は、最大10メートル(33フィート)以内に保つことをお勧めします。通常、この範囲内で最も安定した接続が得られます。もし再生機器がObi3とペアリングしない場合、または接続が切れた場合は、Obi3の電源を一度オフにしてから再度オンにする電源の入れ直しが必要になることがあります。また、再生機器のBluetoothもリセットまたは電源の入れ直しを行うようにしてください。

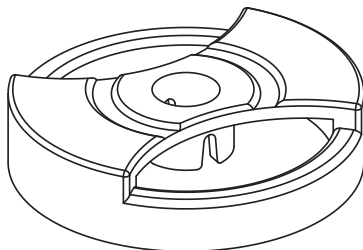
## レコードの再生

ターンテーブルが正しく設置、接続されると、レコードコレクションをお楽しみになれます。

安定した再生を確保するため、再生中およびターンテーブルを使用しないときは、ダストカバーを閉じておくことをお勧めします。

レコードを再生するには、以下の手順に従ってください。

1. スピーカーまたはアンプの電源を入れ、正しい入力を選択してください。
2. ターンテーブルのプラッターにあるスリップマットにレコードを置きます。中央に大きな穴のある45回転レコードを再生する場合は、まずセンタースピンドルに45回転アダプターを置きます。



3. ターンテーブルの速度をレコードに合わせて設定します。ほとんどのLPは33 1/3回転で再生され、シングルやEPは45回転で再生されることが多いです。45/33スイッチでレコードに合った正しい速度を選択してください。
4. キューレバーを持ち上げて、トーンアームをレコード盤面より上に上げます。
5. トーンアームをレコードの冒頭にある目的の溝の上にそっと移動させてください。
6. キューレバーを下げます。トーンアームがゆっくりとレコードに降りて、再生が始まります。

再生が終わったら

1. キューレバーを上げ、トーンアームをレコード面から離します。
2. トーンアームを元のアームレストに戻します。必要に応じてトーンアームクランプでしっかり固定してください。

## 特別な機能

### ピッチコントロール

Obi3のピッチコントロール機能を使えば、再生速度を正確に調整できるため、音のニュアンスを自在にコントロールできます。中央のクリック位置を基準に、再生速度を±10%の範囲で変更可能です。ご自身の耳で聴いて正しい速度になるよう、レコードのピッチを調整してください。

### 自動停止

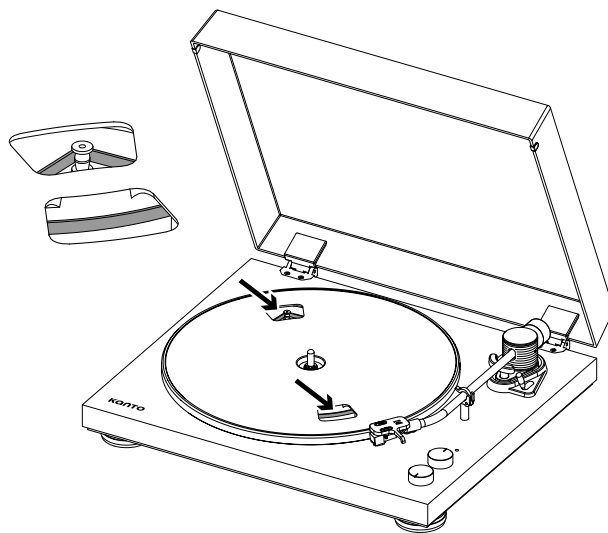
Obi3の自動停止機能は、レコードの終わりに達すると、プлатターの回転を停止させるように設計されており、スタイラスの摩耗を防いで寿命を延ばします。レコードの製造上のばらつきにより、一部のレコードではこの機能が正しく動作しない場合があります。

## 部品の交換

Obi3には、時間の経過とともに摩耗し交換が必要となる可能性のあるパーツが含まれています。継続的に高音質な再生を楽しむために、定期的なメンテナンスや適切なタイミングでの部品交換をお勧めします。

### ドライブベルトの交換

Obi3はベルトドライブ式のターンテーブルのため、モーターとプлатターを繋ぐドライブベルトは重要な部品です。時間が経つと、ベルトが伸びたり、緩んだり、汚れたりすることで、プлатターが正しく回転しなくなったり、音が不安定になったりすることがあります。本体の電源を入れてもプлатターが回転しない場合や、音が歪んだり不安定になったりする場合は、ドライブベルトが正しく取り付けられているか、外れていないかを確認してください。新しいドライブベルトが必要な場合は、Kantoカスタマーサポートに直接お問い合わせください。



### 針(スタイラス)の交換

Obi3にはAudio-Technica製AT3600Lカートリッジが搭載されています。スタイラス(針)はカートリッジに取り付けられ、レコードの溝を読み取るパーツです。これはデリケートな部品で、使用に伴い摩耗するため、定期的に清掃・点検する必要があります。音の歪み、サーフェスノイズの増加、頻繁な音飛び、または特に高音域での明瞭度の低下に気づいたら、スタイラスの交換時期かもしれません。カンチレバーの曲がりや針先の欠けといった目に見える損傷も、明確な交換のサインです。

AT3600Lと互換性のある交換用スタイラス品番は、ATN3600L、ATN3600LC、またはATN-3600LEです。



注意: Obi3は、あらかじめ取り付けられたAudio Technica製AT3600Lカートリッジで最適なパフォーマンスを発揮するように特別に設計されています。Obi3のトーンアームの針圧は固定されているため、指定のAT3600Lカートリッジおよび対応スタイラス以外の使用は推奨されません。サポートされていないカートリッジやスタイラスを使用しようとすると、安全でない、または不安定な再生を引き起こし、音質の劣化、レコードや本体自体の損傷につながる可能性があります。

# トラブルシューティング

このガイドは、Obi3で発生する可能性のある一般的な問題に対処しています。ここに記載されていない問題が発生した場合、または提案された解決策で問題が解決しない場合は、販売店またはカスタマーサポートにお問い合わせください。

ケーブルを接続または取り外す前に、すべてのコンポーネント(ターンテーブル、スピーカー、アンプ)の電源を必ずオフにしてください。

1. プラッターが回転しない。
  - 電源ケーブルがしっかり差し込まれているか、また、使用可能なコンセントに接続されているかを確認してください。
  - 正しい回転速度が選択されていることを確認してください。
  - ベルトが外れていないか確認してください。
  - レコードの最後に達している場合、自動停止機構が作動している可能性があります。キューレバーを上げてトーンアームを戻してから、再度お試しください。
2. 音が出ない/音量が小さい
  - カートリッジのプラスチックカバーが取り外されていることを確認してください。
  - Obi3のPHONO/LINEスイッチが、お使いの受信機器に合わせて正しく設定されていることを確認してください。音源の接続については8ページを参照してください。スピーカーの音量が最小レベルになっていないことを確認してください。スピーカー前面のつまみを使って音量を上げてください。
  - RCAオーディオケーブルがObi3のRCA出力にしっかりと接続されていることを確認してください。
  - 動作確認済みの再生機器でテストしてみてください。
3. 音が歪む、ハムノイズが発生する、または音飛びする
  - Obi3のPHONO出力を使用し、PHONO入力にアース端子がある受信機器に接続している場合は、ハムノイズを減らすためにターンテーブルのアース線をこの端子に接続してください(注:これは通常、Obi3のLINE出力使用時には不要です)。音源に接続されているオーディオケーブルがしっかりと差し込まれていることを確認してください。問題を切り分けるため、別のケーブルや音源で試してください。
  - Obi3のPHONO/LINEスイッチが、お使いの受信機器に合わせて正しく設定されていることを確認してください。音源の接続については8ページを参照してください。
  - RCAオーディオケーブルが両端でしっかりと差し込まれていることを確認してください。ケーブルの不具合が干渉や音質不良の原因になることがあるため、可能であれば別のRCAケーブルを試してください。
  - 電氣的干渉を除外するために、Obi3を別の電気回路のコンセントに接続してみてください。
  - システムの他のコンポーネントからノイズが発生しているかどうかを判断するために、アンプ内蔵型スピーカーまたはアンプから他のすべての音源を切断して、ノイズの原因を特定してください。
  - スタイラス(針)に損傷、曲がり、またはゴミがないか目視で確認してください。摩耗、汚れ、または損傷のあるスタイラスは、著しい歪みやハムノイズの原因となります。カートリッジがしっかりと取り付けられていることを確認してください。
  - レコードをクリーニングしてください。
  - Obi3が安定した完全に水平な面に置かれていることを確認してください。水準器を使って確認してください。不均一な面は、トーンアームが不適切にトレースし、音飛びの原因となることがあります。
  - Obi3はスピーカーから離れた、できれば別の表面に置くようにしてください。
4. Bluetooth再生機器がObi3に接続しない。
  - Obi3と再生機器の両方がペアリングモードになっていることを確認してください。
  - Bluetoothを再有効化する:Obi3とBluetoothスピーカーの両方で、Bluetoothを一度オフにしてから再度オンしてみてください。
  - ペアリングや再生中に信号が安定して届くよう、Obi3とBluetoothスピーカーが最大10メートル(33フィート)以内の距離にあることを確認してください。
5. 片方のチャンネルからしか音が出ない。
  - RCAケーブルを再接続するか、交換してください。
  - カートリッジのワイヤーが抜けている可能性があります。詳細についてはKantoサポートにご連絡ください。
6. 再生速度が不正確。
  - 再生しているレコードに合わせて、33 1/3回転または45回転の速度制御が正しく設定されていることを確認してください。
  - 希望の再生速度になるまでピッチコントロールノブを調整してください。このノブで再生速度を±10%調整できます。
  - ドライブベルトがモータープリーとプラッターの内側の縁に正しくかかっていることを確認してください。ベルトが外れたりねじれたりすると、再生速度に影響を与える可能性があります。

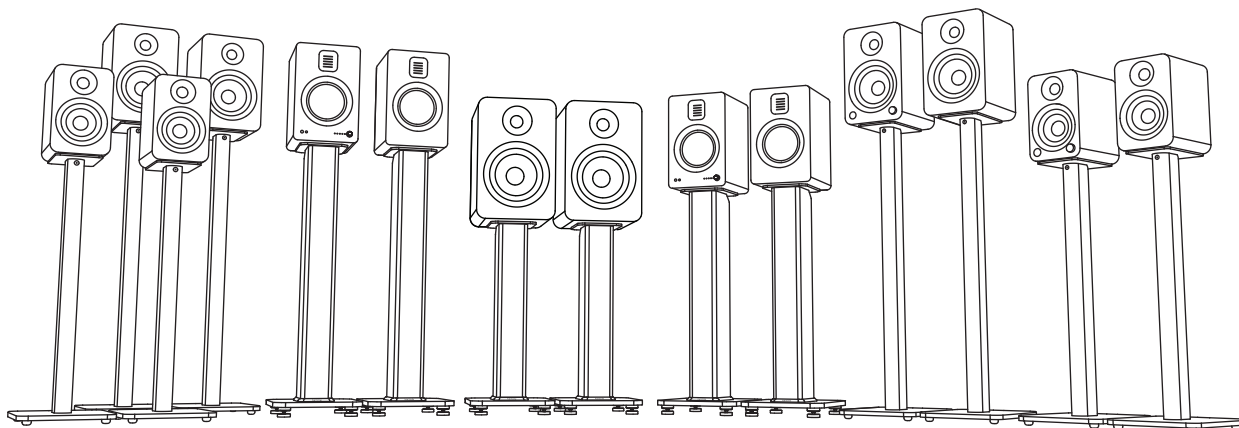
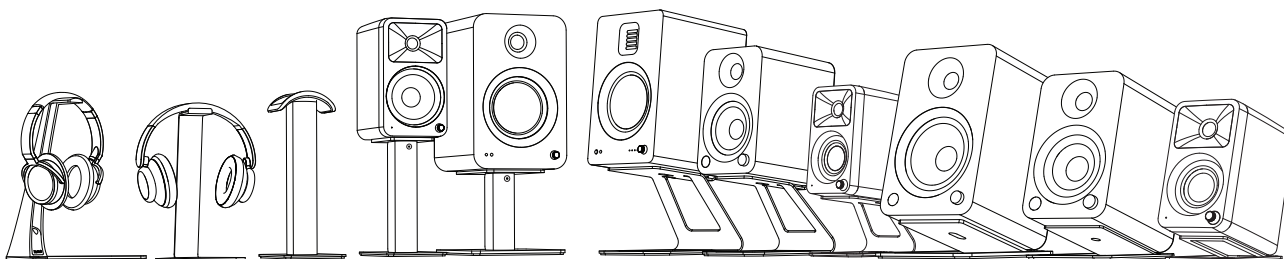
## OB13

ドライブ方式	ベルト駆動
キュー機構	手動レバー式
台座の材質	木製合板(エンジニアードウッド)
プラッター材質	加重アルミニウム
足	調整不可
トーンアーム	アルミ製 J字型
アンチスケート機構	内蔵型(調整不可)
回転速度制御	33 1/3 RPM、45 RPM ピッチコントロールノブ ±10%(ダイヤル式)
カートリッジ	Audio-Technica AT3600L
出力	RCA出力(フォノプリアンプ切替可能) x1 プリアンプ Bluetooth 5.3 x1

 この機器はクラスIIです

注意:本製品は、廃電気電子機器(WEEE)に関する欧州指令2012/19/EUに準拠したラベルが貼付されています。このラベルは、本製品を家庭ごみと一緒に廃棄してはならないことを示しています。回収およびリサイクルのため、適切な施設に廃棄してください。

# KANTO



kantoaudio.com



Kanto Audio



kantoaudio



Kanto Solutions



Kanto Living



## 保証規約

日本国内における保証期間はご購入日から1年です。製品の欠陥が原因で機器が故障し、販売から12ヶ月以内に正規販売店から請求書原本の証明とともに当社に通知された場合、当社は、機器が機械的、電氣的、またはその他の改造を受けていないことを条件に、修理、交換部品の提供または機器の交換を行うことができます。

このマニュアルの情報は慎重にチェックされ、正確であると信じられています。ただし、Kantoはマニュアルに含まれる可能性のある誤りについて一切の責任を負いません。いかなる場合においても、Kantoは機器の欠陥に起因する直接、間接、特別、付随的、または結果的な損害に対して責任を負いません。この保証は、その他の明示または黙示の保証を含む、すべての保証の代替となります。特に商品性や特定の目的への適合性に関する保証を含む、すべての黙示の保証は明示的に否認されます。



1-888-848-2643



[www.kantoaudio.com](http://www.kantoaudio.com)



[support@kantoliving.com](mailto:support@kantoliving.com)

# KANTO